

令和元年度 碧南市地域福祉計画推進委員会 会議録

1 日時

令和2年2月20日（火）午前10時から午前11時25分まで

2 場所

へきなん福祉センター 1階 会議室1・2

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者（各種団体の代表者）

河原厚司、杉浦邦俊、板倉幸雄、禰宜田知司、古井露子、鈴木たか子、對馬幸司、永坂幸子、小島真由子

(2) 欠席者

牧野昭彦、大島直美、生田藤禎、鳥居寛英

(3) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授

(4) 事務局職員

ア 碧南市役所

福祉こども部長 遠山隆夫、福祉課長 杉浦浩二、高齢介護課長 山田昌宏、福祉課社会福祉係長 河原睦、社会福祉係主事 杉浦久美子、澤田直也

イ 碧南市社会福祉協議会

地域福祉課長兼地域福祉係長 鈴木利男、地域福祉担当係長 野中和彦

4 傍聴者

0人

5 議事

(1) 議題

ア 第2次碧南市地域福祉計画の進捗状況について

(ア) 第2次碧南市地域福祉計画の概要

(イ) 市民の意識調査結果

(ウ) 行政の取り組み

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

イ 地域福祉推進会議について

(2) その他

6 議事の要旨

(1) 議題

ア 地域福祉計画の進捗状況について

(ア) 第2次碧南市地域福祉計画の概要について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

意見・質疑等なし。

(イ) 市民の意識調査結果

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【A委員】ボランティア活動をしたことがあるかという設問に対し、参加したことはないとの回答が50パーセントあったとのことであるが、回答者がボランティアの定義を難しく捉えすぎていると思う。町内会で回覧板を配ることや、分別ごみの立ち当番など、地域での小さなボランティアも含めると80パーセント程度の人は参加したことがあると思う。市民に対しボランティアの定義を示すなど、ボランティア参加への意識的なハードルを下げるということについても検討していくことも必要だと思われる。

(ウ) 行政の取り組みについて

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【B委員】資料に記載されている「今年度」や「次年度」というのは、いつからいつまでのことを指すのか。

【事務局】地域福祉計画については、平成28年度から令和2年度までの5カ年計画であり、各年度ごとには達成目標等は設定していないため、計画期間中の継続状況の時点評価として、「今年度」については令和元年度の現在時点における達成度合の状況報告として評価していただければと考えています。

(エ) 社会福祉協議会の取り組みについて

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【C委員】地域福祉推進会議には出席したことはあったが、この委員会に参加することにより、改めて市と社会福祉協議会とが共同で行っている計画に基づいて行っていたものであることを認識した。地域福祉推進会議の場には、小中学校や町内会、老人会など地域で活躍されている色々な方々が一堂に会しており、その場だけで何かが発展していくというわけではないが、その場で各団体を知り、顔見知りとなることで、地域におけるちょっとした困りごとの相談などができるきっかけにもなっている。自分の団体においても、子供たちが地域のふれあいペタボード大会などにボランティアで活動参加しており、子供たちにとってもボランティア活動に参加してみれば、本人にとっても楽しいし、自身の身になる体験ができており、参加できることはありがたいと感じている。地域福祉計画の推進は、このような場の創出の推進を支援することになり大変有意義なものであると感じている。

【D委員】ボランティア活動に関する組織やサークルなどに参加していなくても、車いす利用者が買い物している際に、通りがかりの人が高い所の商品を取ってくれるなど、日常生活の場面でもちょっとした支援をしている人がいることを実感している。

イ 地域福祉推進会議について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

＜主な意見・質疑＞

【E委員】新川地区の推進会議では、挨拶運動について議論しているとのことだが、新川小学校の保護者からの学校に対する評価シートなどにおいても、挨拶については評価が上がってきており、この運動を通して、安全と交流づくりが更に進んで行ってほしい。

【F委員】地域の人は地域の交流やボランティア活動について、真剣に考えていると感じる。挨拶をきっかけにして大人と子供の交流につながると思うが、子供に声をかけることについても、適切な距離感で声をかける必要があり、なかなか難しい。人生経験がある大人が率先してコミュニケーションを取っていくことが重要だと思う。

【G委員】地域の福祉コミュニティを作っていくことは、とても長い時間がかかると思う。市や社会福祉協議会が少しずつ進めていっているが、社会全体ではま

だまだかと思われる。日々の生活の中での他愛もないことであっても、将来を見据えて、少しずつでも積み重ねていくことが大事だと思う。

【H委員】町内会の加入率が減少していつているなかで、特に町内会の役員を任すことのできる人の選出が困難となっている。特に公営住宅は、高齢者世帯などが多く、地区役員などの担い手不足を深刻である。町内会長に女性を選出していくなど、地域のコミュニティの形成にも新たな考え方を検討していく必要もあると思う。

(3) その他

事務局から口頭にて、地域福祉推進会議への地域福祉に興味のある方の参加を呼び掛けた。また、次年度の地域福祉計画の改訂及び地域福祉計画策定委員会について連絡があった。

<主な意見・質疑>

意見・質疑等なし。

(4) アドバイザー（日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授）による総括

地域福祉計画の推進を評価するにあたって、まず地域福祉計画の位置づけを理解することが重要である。地域福祉計画は社会福祉法に規定され、社会福祉法では地域福祉の推進を社会福祉協議会が担っていくべきとされている。碧南市では現行の第2次計画から行政と社会福祉協議会とが共同して策定及び推進しているが、このような共同計画は全国的には珍しく、それぞれが別々の計画を策定していたり、行政が大きな制度や枠組みなどを策定はするものの、実際の地域に対する働きかけは社会福祉協議会のみが行っていたり等連携がなかなか上手く行っていない市町村が多い。計画推進に向けての市民が話し合う場などにおいても、行政は地域住民だけの話し合いの様子を静観していることが多いが、碧南市では、行政や社会福祉協議会の職員も話し合いの場に参加していることで、行政や社会福祉協議会と一緒に地域づくりをしていく意識が、地域住民に芽生えていつていると感じる。数年前は行政や社会福祉協議会が先導して地域づくりを引っ張っていたが、最近は地域住民が他の住民を引き込み福祉推進について取り組んでいく姿が見られ、以前の会議では地域コミュニティの形成はとても長い時間がかかると話したが、その時間も大きく短縮されていつていると思う。また碧南市の取り組みでは、他世代や他団体との連携による企画が進んでいつている。このような連携は、従来の地域に存在していたものの、時代の変化によって薄れてい

ってしまっている地域共生の在り方であり、これを現代に合った形として作り直そうと試みることができている碧南市は、住民の想いの強さがある地域だと感じている。碧南市は、公民館活動も活発に行われ、寺社仏閣や祭事など地域文化も残っており、地域の人たちを思いやるために重要な、地域への愛着は十分にある地域だと思う。また、各委員からは、ボランティアに参加したことがない人が50パーセントであることは少ないとご意見があったが、意見のと通りの堅いイメージのボランティアでさえ、50パーセントの人が参加したことがあることは、住民の地域活動への参加率としては評価できる数字であると思う。福祉の推進と言うと、困っている人に対する支援をどのように充実させるか、ということを考えがちだが、地域福祉の推進においては、地域住民に困っている人のお手伝いできたという体験から自信を積み重ねてもらい、住民が地域の中で生活を成り立たせていくことの支援をしていくことが重要である。地域に対する小さなボランティアを積み重ね地域福祉を推進していったほしい。地域福祉計画は数値的な目標をあえて設定していないので評価は難しいと思われるが、この会議の報告にもあった地域福祉の推進に関するエピソードを積み重ねていき、地域福祉計画の各基本目標に対する各施策との関連性をまとめなおすことで、計画の全体像を捉えやすくなると思う。来年度は、現行計画の最終年度であり、また次期計画の策定年度でもある。引き続き頑張っていたきたい。